

## くらしのお困りごとを きかせてください

秘密厳守  
相談無料

家賃が払えず  
家をおいだされ  
そう...



働きたいけど  
なかなか一歩  
ふみだせない...



ひきこもっている  
家族がいる...



なやみすぎて  
何からしたら  
いいの  
やら...



公共料金が  
払えていない



どうしたら  
いいか  
わからない



☎076-276-9389

くらしサポートセンター  
はいくさん

受付時間 9:00~17:00  
月~金(祝日除く)

くらしサポートセンターはいくさんでは、日々の生活でさまざまな悩みごとや困りごとで不安を抱えている方の相談をお聴きし、一人ひとりにあった支援と一緒に考えていきます。能登半島地震で被災され、白山市内のご家族のもとに避難されている方や、白山市に転居された方の相談もお待ちしています。

- 生活困窮者自立相談支援事業・就労準備支援事業・家計改善支援事業（白山市より受託）
- 福祉サービス利用支援事業・生活福祉資金貸付事業（石川県社会福祉協議会より受託）
- 障害者相談支援事業（白山市より受託）
- 被災者見守り・相談支援等事業（石川県より受託）

その他の相談を一体的包括的に実施しています。

この広報誌は、赤い羽根共同募金助成金及び社協活動協力金の一部を充てて作成しています。

社会福祉法人 白山市社会福祉協議会



### 令和6年度 赤い羽根あったか募金実績報告

令和6年度赤い羽根あったか募金は、1月1日～3月31日の期間、募金活動を行いました。多くのご支援、本当にありがとうございました。お寄せいただいた募金は、白山市共同募金委員会を通じて、下記の団体に全額助成させていただきます。助成団体は、この助成金を活用し今年度予定している事業を実施していきます。

| 団体名                  | 事業名         | 目標額      | 実績      |
|----------------------|-------------|----------|---------|
| 白山市災害ボランティアコーディネーター会 | 市民の防災意識啓発事業 | 200,000円 | 93,414円 |

#### 令和6年度赤い羽根 あったか募金実績の内訳

| 募金方法 | 件数  | 金額      |
|------|-----|---------|
| 法人   | —   | —       |
| 戸別   | 1件  | 9,800円  |
| 個人   | 3件  | 12,292円 |
| 募金箱  | 56件 | 37,730円 |
| 職域   | 1件  | 21,000円 |
| イベント | 1件  | 3,522円  |
| 街頭   | 1件  | 9,064円  |
| その他  | 2件  | 6円      |
| 合計   | 65件 | 93,414円 |

#### ご寄付いただきました 団体・個人の皆さま

- 鶴来今町町内会
- 松任ふれあい赤十字奉仕団
- 匿名  
(敬称略・順不同)



### ALL白山青年サミット様と 「災害時における協力に関する協定」を締結



白山市社会福祉協議会は、令和7年3月14日、ALL白山青年サミットと災害時における協力協定を締結しました。

本協定の締結を機に、災害時の支援体制の強化に加え、地域共生社会の推進に向けて、平時からも連携・協働を深め、安心して暮らせる地域づくりを進めてまいります。

### 福祉バスの利用規約が変更されます

福祉バスは、福祉の増進を図ることを目的に市内の各団体の活動に利用されています。

今年度からより多くの団体に利用していただけるように、バスの利用規約を以下の通り変更致します。

- ①1団体あたりの利用回数を**年3回**までに変更します。
- ②バス利用時の最小人数を**10名以上**とし、より少ない人数からでも利用できるよう変更します。(従来は15名以上)



### 福祉バス 予約・申込み方法

#### 予約受付

利用日3か月前の月初営業日  
午前9時からです

#### 予約方法

予約受付開始日の午前9時から、福祉ふれあいセンターにおいて3か月後のバス利用の予約抽選会を実施します。予約が入らなかった日については、随時予約を受け付けますので、お気軽にお申し込みください。

#### お申込み詳細

右のQRコードまたは  
【白山市社協 福祉バス】で検索



次号は8月に発行予定です

ふくちゃん  
白山市社会福祉協議会  
マスコットキャラクター



社会福祉法人 白山市社会福祉協議会

〒924-0865 石川県白山市倉光八丁目16番地1 (福祉ふれあいセンター内)

TEL 076(276)3151 / FAX 076(276)4535

[ホームページ] <http://www.hakusanshi-syakyo.jp/> [E-mail] [syakyo-info@hakusanshi-syakyo.jp](mailto:syakyo-info@hakusanshi-syakyo.jp)





連載コラム 第27回  
地域でふくし

白山市社会福祉協議会は地域の課題を地域のみなさんと一緒に考え、解決に向かう活動を推進しています。



このコラムでは、みなさんが実際に行っている活動を紹介し、活動されるみなさんの課題解決などのヒントにしていきたいと考えています。

## 松任地域の見守り活動 お元気ですか訪問事業

松任地域の各地区社会福祉協議会は、高齢者の見守りと安心して暮らせる地域づくりを目的とした「お元気ですか訪問事業」を実施しています。

この事業は、75歳以上のひとり暮らし高齢者や地域で支援が必要な方を対象に、月に一度、民生委員・福祉協力員・ボランティアの方々が訪問し、声かけや見守り活動を行うものです。訪問の際には、生活に役立つ物品等をお持ちし、それぞれの品には心を込めたメッセージも添えています。

現在、約600名の方が利用されており、多くの地域住民やボランティアの方々の協力のもと、あたたかな地域のつながりを大切にしています。最近では、夏の暑さが年々厳しさを増していることから、熱中症予防にも力を入れており、訪問時には室温の確認や水分補給の声かけなども行っています。月に一度の訪問ではありますが、困りごとや不安なこと、ちょっとした相談なども気軽に話しかける機会です。

今後も、住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるまちづくりに取り組んでまいります。



## 吉野谷地域 ～雪かきボランティアが高齢者の生活を支援～

### 吉野谷地域で一人暮らしの高齢者宅にて、雪かきを実施。 地域住民や民生委員・社協の連携により、安心と笑顔を届けました。

吉野谷地域に住んでおられる一人暮らし高齢者の方から2月5日(水)、「消雪に使っている水が寒さで追いつかず、家の玄関前が雪に覆われ、外へ出られなくなって困っている」と吉野谷支所に相談がありました。この声を受けて、すぐに地元の区長さんや民生委員さん、そして社協本所と相談を重ね、雪かきボランティアで対応することといたしました。

2月8日(土)、ボランティアスタッフ3名とともに、玄関から生活道路までの雪かきを行いました。作業の間には「ありがとうね」「もう少しで通れるよ!」と、笑顔と声が飛び交いました。

作業を終えた後、高齢者の方は「これで安心して外に出られます。ほんとうにありがとうございました」と、ほっとした表情で感謝の言葉を伝えてくださいました。スタッフも「お一人で大変やったね。また困ったときは、社協にいつでも相談してね」とあたたかく声をかけていました。

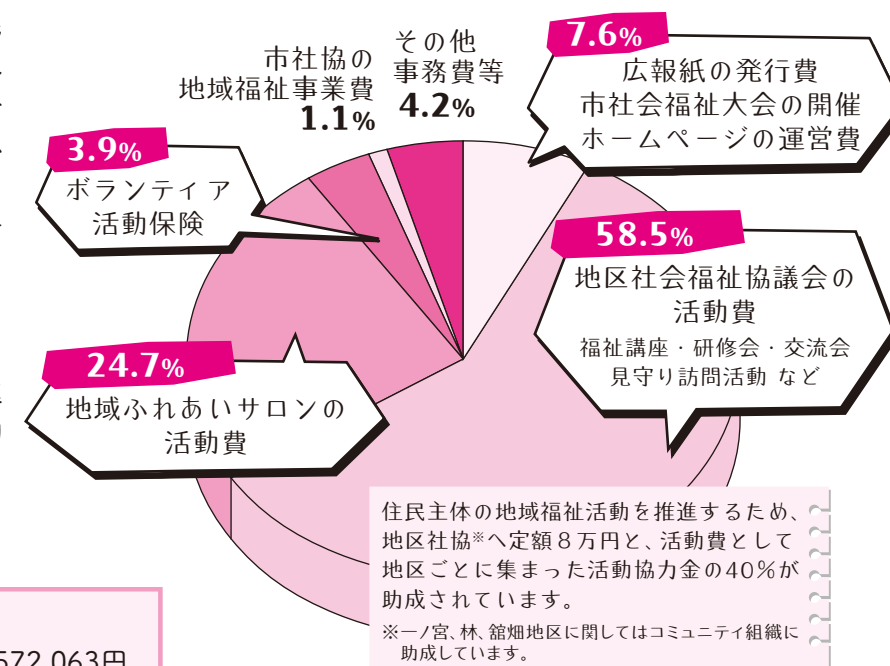


## 令和7年度 白山市社会福祉協議会 活動協力金納入のお願い

白山市社会福祉協議会は、市民の皆さんが会員となって組織されている社会福祉法人です。本会では、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域でのつながりや支え合いなど、地域福祉活動を推進するための様々な事業を行っています。

市民の皆様からいただく本会の活動協力金は、地域福祉活動を推進する上で欠かすことのできない大切な支えになっています。今年度も皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

令和6年度は  
普通会員活動協力金として、13,572,063円  
賛助会員活動協力金として、1,700,000円  
ご協力をいただきました。



活動協力金はこのように  
使わせていただきます (令和7年予算)

### 今年度も地域福祉へのご支援よろしくお願いいたします

| 区分   | 金額            | 対象             |
|------|---------------|----------------|
| 普通会員 | 500円/世帯       | 白山市内の世帯        |
| 賛助会員 | 10,000円/法人・団体 | 白山市内の企業・法人・団体等 |

「会員」とは活動協力金を納入いただいた方のことです。

## 珠洲市災害ボランティアセンターでの活動を振り返って

白山市社会福祉協議会 鳥越支所 河野 泰治

私は、昨年1月の発災以降、珠洲市災害ボランティアセンター（以下「災害VC」という。）に派遣され、その時々に応じた活動をしてきましたので、その概況をご報告いたします。

最初に派遣されたときは、まだ一般のボランティアを受け入れる前でした。そのころは、災害VCの周知及びニーズ（こんな活動をしてほしい、という要望のこと）の聞き取りを行っていましたが、住民の方にボランティアを受け入れるだけの素地はまだないよう見えました。

2月にボランティアを受け入れるようになってからは、ニーズとボランティアをつなぐ役割を主に担いました。連休明けくらいからボランティアの受け入れ数も増加し、6月末には1日に150名ほどのボランティアを受け入れた日もありました。

少しずつ活動の目途がついてきて、10月からは週末のみ災害VCを稼働させる体制に変更しようかと話していた矢先に、豪雨により再度被災することとなりました。地元スタッフへの負担は相当大きく、その気持ちを押し量ることすら難しいと感じました。しかし、彼らが前を向こうとしている様子を見て、私にできることは何なのかを模索しつつ活動をしてきたように思います。

今年に入り徐々に災害VCの運営も地元主体で行われるようになり、3月上旬の派遣をもって本会からの派遣も終了となりましたが、今後も珠洲市社協に受け入れていただけるのであれば、私にできることを継続して取り組んでいきたいと考えています。